

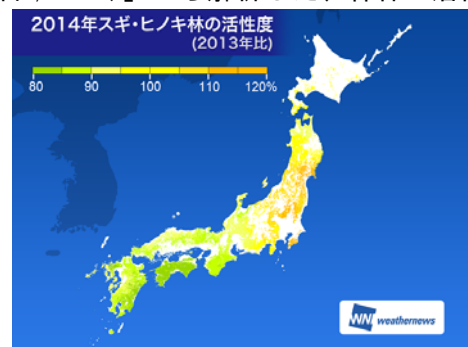


花粉シーズン到来！ 衛星情報を駆使して飛散予報

昨年秋に、(株)ウェザーニューズは、2015年の花粉シーズンにおける全国および各12エリアの“スギ・ヒノキ花粉飛散”傾向を発表しました。この予報には、千葉大学環境リモートセンシング研究センターと共同で研究してきた衛星データから森林の活性度を示す指標が活用されています。

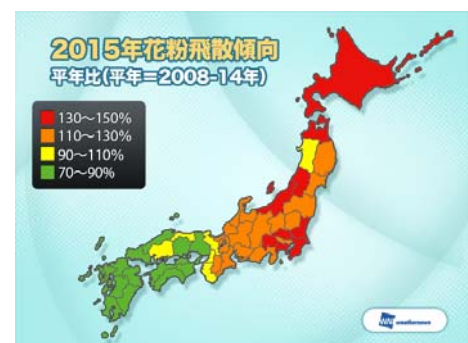
◆全国の花粉尘散量予想◆

今回の花粉飛散予想では、スギ・ヒノキ林にどれだけ多くの雄花が成長しているのか、全国の森林における雄花の成長状況を、衛星データを利用して把握し、花粉飛散予測に反映させています。「光合成有効放射吸収率（植物が光合成に有効な波長の光を吸収する割合；FPAR）」から解析した、森林の活性度を示す指標値が高いほど、スギの雄花の量が多くなると考えられます。森林の活性度を解析した結果、関東、甲信越、東北、北海道では2013年夏よりもFPARが高いか同程度なり、北陸西部や東海（静岡県を除く）、西日本各地では、2013年夏よりもFPARが低くなりました。これらは、2015年の花粉飛散量が、西日本を中心に2014年より少なくなり、東～北日本では2014年並か多くなることを示唆しています。



◆飛散ピーク時期◆

スギ花粉の飛散ピーク時期は、九州では2月末～3月はじめ、その他の西日本や関東、東海では3月上旬～中旬、北陸では3月中旬～下旬、東北では3月下旬～4月上旬の見通しです。スギ花粉の飛散量がピークを過ぎた後、桜の花が咲く頃にヒノキ花粉の飛散量が増え、九州では3月末～4月はじめ、その他の西日本、東日本では4月上旬～中旬にヒノキの花粉尘散量がピークとなる見通しです。



◆飛散量の傾向◆

花粉飛散量は、北～東日本ほど多く、東北や関東、中部では平年（2008～2014年平均）の110～150%、東北や中部でも110～150%と多くの花粉が飛散する予想です。近畿では平年と同程度～130%となる見込みです。一方、その他の西日本エリアの飛散量は平年より少ない所が多く、中四国では平年の80～90%程度、九州では平年の70～90%程度となる見通しです。



(本郷千春)

修士課程1年生の研究成果中間発表会

CEReS に所属する融合科学研究科と理学研究科博士課程前期1年生による、研究成果中間発表会が12月22日に実施されました。本年度は昨年度に比べ、倍の16名の発表者がありました（下表参照）。発表者の数は多かったのですが発表時間を短くすることはせずに14分の発表時間、5分の質疑応答の時間をとり、十分な議論ができるよう配慮しました。そのため昨年と同様に発表に対する様々な質問やコメントがなされ、活発な議論が展開される場面もありました。発表した学生諸君には新たな視点で自分の研究を考えるきっかけになればよいと考えます。（梶原康司）

氏名	所属研究室	学科・専攻	研究課題名
武藤 拓也	久世・入江・齋藤	融合科学研究科 情報科学	衛星観測及び地上観測による日本の対流圏NO ₂ カラム濃度のトレンド解析
加藤 知道	久世・入江・齋藤	融合科学研究科 情報科学	太陽電池駆動型大気観測装置 Eco-MAXDOAS の開発
顧 溢毅	久世・入江・齋藤	融合科学研究科 情報科学	衛星データを利用した千葉県の都市近郊農地に関する研究
木本 周平	久世・入江・齋藤	融合科学研究科 情報科学	航空機観測データを用いた GOSAT/TANSO-FTS TIR CO ₂ プロファイルの検証
杉村 亮	久世・入江・齋藤	融合科学研究科 情報科学	CONTRAIL および NICAM データを用いた GOSAT/TANSO-FTS TIR 上空 CO ₂ データの検証
入江 大輔	本多・梶原	融合科学研究科 情報科学	マルチバンドプロジェクトの構築と応用
植田 文士	本多・梶原	融合科学研究科 情報科学	バイオマス推定における三次元点群データの利用に関する研究
永井 将貴	樋口	理学研究科地球 生命圏科学	黒潮前線帯近傍で急速に発達する温帯低気圧の進路と発達要因について
Bui Duc Long	建石	理学研究科地球 生命圏科学	MODIS データを用いた大陸規模裸地マッピングに関する研究
Destika Cahyana	建石	理学研究科地球 生命圏科学	Progress Report Swamp Land Mapping in Upstream River Region in South Kalimantan, Indonesia
宮本 大地	建石	理学研究科地球 生命圏科学	MODIS データを用いた低木・草地のマッピング
若泉 琢磨	建石	理学研究科地球 生命圏科学	MODIS データを用いた大陸単位の農地マッピングに関する研究
哈申格日樂	近藤	理学研究科地球 生命圏科学	多時期 Landsat データを用いたホルチン地域の土地利用変遷に関する検討
濱 侃	近藤	理学研究科地球 生命圏科学	ラジコンマルチコプターを使用した水稻生育状況モニタリング
俞 江	近藤	理学研究科地球 生命圏科学	中国華北平原における農事歴の変化について
劉 賓	近藤	理学研究科地球 生命圏科学	下総台地谷津周辺部における地下水流動と硝酸性窒素汚染に関する研究 -富里天神谷津を対象として-

第17回環境リモートセンシングシンポジウムのご案内 (H26年度 CEReS 共同利用研究成果報告会)

場所 千葉大学けやき会館 3階 レセプションホール、2階 会議室2、3階 会議室4

日時 2015年2月20日(金) 9:00~18:00

プログラムは <http://www.cr.chiba-u.jp/Documents/symposiums/symp2014/RSprogram17-H26.pdf> でご覧いただけます。

<聴講無料：聴講希望の方は事前登録をお願いします。>

申し込み先は、kyoudo@ceres.cr.chiba-u.ac.jp です。会場での当日の参加も受け付けます。